水の猛威 爪跡深く

30億円を超える大雨被害

元町川が増水し、町道茶屋場岩瀬張線が約200㍍にわたり決壊（7日午後1時＝元町）。写真㊨は、同じ場所の翌日の様子。水位が一気に下がり、稲はせは濁流にのまれていた

十月六日から七日にかけ、発達した低気圧の影響による暴風と記録的な大雨で、本町はかつてない災害に見舞われました。七日午前七時、町は災害対策本部を設置し、町全域の被害調査を行うとともに、住民の安全確保を重視し、町で初めて避難勧告が発令されました。降りしきる雨の中、消防団などの懸命な活動や住民が自主的に協力する姿などさまざまな光景を目にしました。災害に強い町づくりに向けて、今回の教訓を生かした取り組みが今、町や地域に求められています。

袖山の降水量は観測史上1位の383㍉

県北部と沿岸部を中心に降り続いた今回の大雨は、本町では特に袖山、平庭周辺の沢や川の影響を受ける地域に大きな被害をもたらしました。

気象庁の袖山観測所の降水量は、六日午前一時から八日二十四時までの七十二時間で三八三㍉と、昭和五十一年の設置以来、観測史上一位を記録する大雨となりました。役場裏の葛巻観測所も、二二二㍉と記録を更新しています。

盛岡地区に大雨洪水警報が発表されたのは、六日午後八時三十二分。町は、これを受け、午後八時四十五分に災害警戒本部を設置し、町内全域の見回りなど災害の発生に備えました。

七日未明から朝にかけて国道や町道などへの倒木、土砂の撤去作業、住家などへの浸水対策に追われ、午前七時、警戒本部は災害対策本部に切り替えられました。

降り続けた雨で、元町川や馬淵川、星野川などの河川が増水。馬淵川の水位は七日午後四時、打田子橋の観測地点でとうとう警戒水位の二㍍を超えました。降り始める前の水位はわずかに八㌢。七日午後七時には最大の二・二三㍍に達しました。

住家の被害は42棟 被害総額は30億円

町が十月二十七日現在でまとめた被害状況は、住家の一部破損が一棟のほか、床上浸水七棟、床下浸水が三十四棟になっています。

町道の被害は十八路線で、路面決壊により現在通行できない路線は、茶屋場岩瀬張線、打田内袖山線など六路線です。林道は七路線で、そのうち荒沢口線、打田内線など五路線が通行不能です。

〔そのほかの被害状況〕

■商工関係…工場建物や製品などの浸水八件、橋の流失一件

■農業施設…一部決壊一棟、床上浸水二棟、床下浸水九棟

■農作物等…六三・七㌶、八十五戸

■農地農業用施設…十二・九㌶（田七・四㌶、畑五・五㌶）

■林業関係…十二件

■公共土木施設被害…国道二カ所、県道二カ所、河川一カ所（七十四カ所）

■水道施設…九施設十六カ所

■農業集落排水施設…一施設、二カ所

これらの被害総額は、県二十億円、町十億円で合わせて三十億円を超えるものと見込まれています。

初の避難勧告発令 8地区358世帯

今回の災害では、町で初めて避難勧告が発令されました。最初の避難勧告は七日午前十一時、最大の被災地となった江刈川地区の元町川沿いと元町の一部五十二世帯に発令され、それぞれの地区センターに避難しました。

午後二時には、江刈の今待集落が江刈農村センターへ。さらに、午後四時四十五分、元町川沿いの茶屋場地区と四日市地区の一部、午後六時十五分には田代から坂待屋までの馬淵川沿いの世帯が避難勧告を受けています。

勧告の対象は、町内八地区六カ所で三百五十八世帯、九百二十八人。そのうち、九十八世帯、二百二十七人が避難所で眠れぬ一夜を過ごしました。勧告は、八日午前八時十分に解除されています。

災害の様子

沢が増水し、小屋は流れの中へ（7日午後4時＝高家領）

周囲に土のうを6段積み上げ、床上浸水を免れた住宅（8日午後4時＝寺田）

家と家との間を水が走り、土台をの土がえぐられ建物の擁壁が崩落（8日午前10時＝元町）

大量の沢水が流入し星野川が増水。道路の土がえぐられ、通行不能になった町道横打馬場線（8日午後2時＝横打）

土砂で水路が封鎖され、あふれ出た水は農地をまっすぐ下り、正面の江刈保育園へ（8日午後4時＝今待）